

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立東吾嬬小学校
校長名	齊藤 伸治

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・2～4年生は、全ての項目で目標値を上回ることができた。また、国語においては、全学年が目標値を上回った。・昨年度の課題であった6年国語「思考・判断・表現」、4年社会「知識・技能」「思考・判断・表現」は、目標値を上回った。 特に6年国語「思考・判断」は、意図に応じて文を書いたり、指定された長さで文を書いたりする問題で、目標値を15～20ポイント近く上回った。・2・3年生は国語の上回り平均+11ポイント、算数の上回り平均+6.9ポイントであった。・6年英語は、昨年度に引き続き目標値を上回ることができた。	<ul style="list-style-type: none">・5年算数・理科・社会の全項目で目標値に届かなかった。経年変化を見ると、算数と理科のスコアが大きく下がっている。・6年生は、社会「思考・判断・表現」、理科全項目で目標値を下回った。理科でも「思考・判断・表現」が大きな課題であり、問題解決的な学習の継続的な指導に加え、学んだことを復習する時間を学校全体で確保していく。・3年は全項目で目標値を超えているものの、CD層が3年児童数の35～37%である。・全学年、全教科で共通した課題は、グラフや資料から必要な情報を正しく読み取ることである。また、複数の情報が提示されると、読み取ったり、それを基に考えたりする力が落ちる傾向にある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学習の動機を問われ、「分かることができることが楽しい」「しっかり考えるようになりたい」「将来の仕事や生活に役立つ」の項目に、肯定的に回答した割合が8割を超えている。学習の必要性を理解し、真面目に学習に取り組む意識がある。・「友達や先生と学習するのが楽しい」の肯定率は85.7%で、「自分の考えを他の人や先生に説明する時間がある」と、肯定的に答えた児童も83.7%と高く、考えの伝え合いを大事にした授業を積み重ねた成果である。	<ul style="list-style-type: none">・「ドリル学習などで繰り返し学習する」ことや「確実にできるようになるまで、繰り返し練習している」ことが都の平均を下回っている。また、家庭での学習時間も少なく、4年～6年生の児童のうち、「毎日30分より少ない」「全くしない」と答えた児童が5割に上った。授業終末で学んだことを生かして問題に取り組む時間の確保や、家庭学習での繰り返し学習の実施と定着が課題である。家庭学習の充実を図り、基礎・基本の定着につなげていくことが課題である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・全学級で授業規律が保たれ、児童が意欲的に学習している。 ・学校支援ネットワークを活用し、各学年で出前授業を実施し、体験的な授業を受けたり、専門的な話を聞いたりする機会を設定している。そのため、学習課題をより身近に感じることができ、学習内容への興味関心を広げる機会となっている。また、理科・生活科の授業でも、体験と思考から生まれる気付きや、予想を立てて実験し考察する過程を大切にした授業を展開している。 ・「ミライシード」「振り返りシート」「まるぐランド」「よむYOMUワークシート」「問題データベース」については朝学習や夏休みに取り組んだ。学校では空いている時間に児童が自主的に取り組むなど、活用している様子が見られる。 ・全国学力・学習状況調査では、4項目全て目標値を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読む習慣はつきつつあるものの、選書に偏りが見られる。図鑑や漫画のように見て分かるように示された本を好む傾向があり、文章を読むということが苦手である。読解力そして想像力を伸ばすためにも物語文等も読むようにすることが課題である。 ・書きたいことがあっても、自分の思いをまとめることが苦手な児童が見受けられる。また、学力調査でも明らかになったが、時間や文字数の制限や書き方の条件がある中で、自分の考えをまとめる力をつける必要がある。日頃から制限や条件を意識して文章を書く機会を設定していきたい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 教員の指導力・授業力を高めるための組織的な取組

- ・区学習状況調査結果により明らかになった本校児童の傾向が、①複数の資料（図や表等）を読み解くことに苦手意識をもっている、②話し合い学習等により深めた自分の考えをまとめることに自信をもてない、③教科等により基礎基本の定着が不十分な場合がある、の3点である。そこで、「読み解く、まとめる、身に付ける」をキーワードに、全校体制で学習指導に取り組んでいく。
- ・校内研究において、「自然に親しみ、主体的に問題を解決する児童の育成」を研究テーマとし、生活科・理科の指導を通して、見通しをもち、主体的に問題を解決する力の育成を図っている。研究授業では、講師からの指導・助言を受け、指導内容や方法を工夫・改善した授業を実践していく。また、その成果として研究発表会を実施する。
- ・毎月の自主研修会、学年会等校内のOJT体制を確立し、教員それぞれの専門性を生かした指導・助言等を活性化させ、指導技術を高められるようにする。

(2) 確かな学力を育てるための取組

- ・授業のすみだスタイル「授業の終わりにアウトプット」を意識した学習指導を毎回の授業で行うことにより、先生や仲間、教科書やインターネット等から学んだ知識や考え方（＝インプット）を文章に表現したり、問題を解いたりする（＝アウトプット）ことで学習の一層の定着を図る。

- ・学力向上委員会で「ミライシード」「振り返りシート」「まるぐランド」「よむYOMUワークシート」「問題データベース」等を活用し、基礎・基本の定着を図る。家庭でもタブレット端末を活用してドリル学習に取り組み、児童の一人一人の学習の改善を進める。
- ・週5日の放課後学習教室で、教員と補習教室指導員とで指導し、参加児童の学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、学力の向上につなげる。指導教科は国語・社会・算数・理科とする。
- ・時間や文字数の制限や書き方の条件がある中で、自分の考えをまとめる力をつけるため、制限や条件を設定して文章を書く時間を授業に取り入れる。また、図や表を正確に読む力をつけるため、指導の際には、表されている内容や単位、数等、丁寧に押さえる。これらの授業改善に、学力向上委員会を中心に取り組む。

(3) 保護者・地域と連携した取組

- ・本校の児童の課題とその改善策について、学校の授業で取り組むこと、家庭学習等の家庭・地域で取り組んでいただきたいことを伝え、学校と保護者・地域とが連携して児童の学力向上を図る。
- ・「生活リズムチェック」等の望ましい生活習慣を継続する取組を家庭と連携することにより、児童の生活の安定と学習環境の維持・向上を図る。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・本校平均正答率を、伸ばす。

第2学年（現1年生）	全校平均より+5ポイント以上
第3学年（現2年生）	全国平均より+7ポイント
第4学年（現3年生）	全国平均より+7ポイント
第5学年（現4年生）	全国平均より+7ポイント
第6学年（現5年生）	全国平均より+3ポイント
- ・意識調査で、学習習慣・学習意欲に関する肯定率を全項目平均で60%以上